



がくじ



摂南大学図書館報

No. 47

1996.10

学而時習之、不亦説乎。（「論語」より）

—学びて時にこれを習う、亦た説まばしからずや—

*題字は王羲之の書による

出 会 い

法学部教授

 ごうはら もとすけ
 郷原 資亮


人生は人との邂逅であり、本との出会いである。読書が文字を通しての間接的人との出会いであるとすれば、それは、全て人との出会い、めぐり合いであるといかえることが出来るのかも知れない。この拙文は私のささやかな出会いの一端を通じて綴る自分小史でもある。「原告は文明なり」昭和21年4月30日付の私（旧制中学1年）の日記は、その日の朝刊の見出しとなった東京裁判におけるキーンン検事の言葉を、少年の筆跡で大きく引用し「日本と云う国は、本当に野蛮なのだろうか」と自問している。自らが生を享けた日本という国に、強い関心を抱いた端緒である。新制高等学校1年生（昭和25年）の夏休み、故郷の町の書店で、私は一冊の書物に興奮を覚えた。ルース・ベネディクト著「菊と刀」との出会いである。西欧文化を「罪の文化」、日本文化を「恥の文化」と規定する洞察にはこういうことを勉強するのが学問というのだろうかとの想いであった。ただ西欧文化の優越性を当然の前提にした叙述に抵抗を覚えたことを未だに忘れることが出来ない。

アルバイトに明け暮れていた学生生活は、人生や社会を考えさせる文庫本中心の乱読の

時期である。社会人となり欧米人と接触する機会が増大しつつあった頃、欧米人の自国の言語のみを使用し、それで押し通そうとする姿勢に大きな疑問を感じていた。一つの解答を与えてくれたのが鱗田豊之著「肉食の思想」である。曰く「何世紀にもわたる欧米諸国の植民地支配の歴史は、まるで家畜のように殺されていった多くの非ヨーロッパ人の血にいろどられている。大抵の植民地は独立した（中略）しかし、精神構造は変っていない。ヨーロッパ人は世界のどこへ行っても自分たちの言語や生活習慣をおしとおそうとする。現地人の方で、彼等にあわすのがあたりまえだと思っている…」。

厳しい実社会での座右の一冊は、洪自誠著、「菜根譚」である。その多くの警句の一に「人を責むるは、無過を有過の中に原ぬれば、則ち情平らかなり。己を責むるは、有過を無過の内に求むれば、則ち徳進む」がある。最後に、忘れ難い直接の出会いの一つを。新入社員として仕えた直属の上司は、死線（特殊潜航艇“回天”乗組）を越えて生還、強靱な精神を温顔で包む人格者だった。「自らに厳しく他者に寛容であれ」と。

国際化の時代を背景に、卒業後留学する人が増えています。図書館でも「留学」に関する図書はよく利用されており、その関心の深さが窺われます。そこでこの9月からアメリカのメリーランド大学・大学院に留学することになった卒業生の谷口葉子さんに、出発前のあわただしい中、後輩諸君の参考のために留学を決めた理由や勉強法などについて書いていただきました。

大学院留学への道

たにぐち ようこ
谷口 葉子

(国際言語文化学部'96年卒)



私はこの9月からアメリカ・メリーランド州のUniversity of Marylandへ留学します。Public Managementというコースの修士課程で、専攻はEnvironmental Policyです。ただ、努力不足のせいか「条件付き入学」で、最初の12単位でBグレード以上を取れなかった場合は退学になってしまいます。ただでさえかなりハードといわれているアメリカの修士課程に成績のプレッシャーがかかることはつらいと思いますが、希望するEnvironmental Policyで入学許可が下りたのはここだけだったので頑張ってみることにしました。

大学院留学を目指した理由

私は以前から環境問題に興味がありました。何となく本を読んだりするうちに環境問題が経済の問題と深くかわりがあり、今の国際経済のあり方が途上国の飢餓や貧困の原因になっていることが分かってきました。途上国は経済発展を目指して今の先進国をモデルに頑張っていますが、今の日本やアメリカのように世界の残り4分の3以上を占める途上国がなくなれば、地球環境が減びてしまいます。そこで、貧困を撲滅し、かつ地球環境も永久に減びることのない持続可能な社会を作るために、まず日本人として緊急を要する仕事は途上国における環境技術・知識の移転と教育によるその普及ではないかと思い、そのような仕事に就いて社会の役に立ちたいと思いました。

しかし、途上国開発の仕事は国際的な仕事で人気を集める中、「やりがいのある仕事」として近年は難関を極めており、中でも国際協力事業団(JICA)の競争率は何千倍とも言われる超難関です。国連は大学院卒が、専門知識・技術を即戦力として使えるプロフェッショナルの採用が一般化しており、かな

りエリート職となっています。NGOもその給料の低さ・不安定さ・仕事のハードさにもかかわらず、希望者多数で難関となっており、あまり大学でこれといった勉強もしていなかった私にとって希望職種へ就くには大学院進学が妥当かと思われました。また、途上国開発に問われる能力として、英語での業務遂行能力、即戦力となる専門分野での知識・技術力、異文化での生活に耐えうる体力と異文化の価値観を受け入れる寛容性、そのほか、事務処理能力、企画・運営での指導力、コミュニケーション能力などが挙げられますが、アメリカの大学院に留学することが一番これらの能力を養うのに適当だと判断しました。

海外研修で得たもの

私が大学院留学を本気で考え出したのは3年生のとき、シアトルへの海外研修に参加したのがきっかけでした。まず、勤勉な日本人に比べて、何てアメリカ人ってぐうたらなんだと思っていたそれまでの私の「アメリカ人観」が、実際にアメリカに行くことにより一変しました。ぐうたらどころか、アメリカの大学生は将来の目的を持ち、その目的のために必死に勉強していつも忙しそうにせかせかしていました。更に、中には働きながら授業料を自分で払って通っている学生がたくさんいるそうです。そのようなアメリカ人の学生を見て、自分に比べてなんて大人なんだろう、と恥ずかしく思いました。

また、引率だった宍戸先生や岩田先生と話をする機会を持ち、留学の体験談を聞いたり、将来の相談に乗ってもらったりしました。そのとき軽く「大学院留学すればいいんだよ」と言われたことで、大学院留学が夢ではなく、私のようなぐうたらでも頑張れば実現できることなのかもしれない、と自信を持つことが

できました。

留学にむけての勉強

やはりまず克服しなければいけない第一の関門はTOEFLの点数です。友達が超氷河期の荒波にもまれ就職活動をしているとき、私は必死に英語の勉強をしました。TOEFL600点以上を目指したほうが良い、という事を聞いていたので、苦手なヒアリングを中心にTOEFL専用の問題集をこなしていくことにしました。そのおかげで時間配分を工夫したりすることができ、得点のアップにつながったと思います。

専門知識の勉強もしたほうが良いと思います。日本語でまず理解することも大切なので、日本語の本や、専門用語などを覚えるために英語の本も読んでおいたほうが良いようです。アメリカの大学生はコンピュータが使えることは当然になっているようで、それも日本にいるうちにやっておいたほうが良いようです。

一番大切なことは、自分の目的をしっかりと持ち、早くから経験を積み重ねておくことだと思います。入学の専攻には通常、その大学を志望する理由や自分の将来の目的、自分自身の能力を述べるPersonal Statementを提出する必要があり、推薦書とともに非常に重視されるそうです。私はそれまで関連分野における活動やボランティアをしたこともなければ、論文を書いたり、何かの賞をもらったりしていたわけではなく、「大学院に入ってしっかりと勉強し、優秀な成績を収め、私の入学を認めることがその大学にとって有益であること」を証明する道具が少なかったのでStatementを書くのに苦労しました。

ようやく大学院から合格通知をもらいまし



キャンパスの芝生に立つ谷口さん。
後ろの建物はAdministration Building

たが、初めに述べたようにアメリカの大学院での授業はかなりハードらしく、これからもっと厳しい試練が待ち受けています。留学経験者の話によれば、1つの授業にテキストが何十冊とついてくる事も珍しくなく、睡眠時間は3～6時間で休みの日も家や図書館に閉じこもって勉強していたそうです。

皆さんへのアドバイス

私は今になって環境NGOの活動に参加したりしていますが、どうしてもっと学生のうちからしなかったんだろうと非常に後悔しています。今はいろんなことを勉強したりいろんな活動に参加したくてもどうしてもバイトとの両立があり時間の制約がありますが、学生は勉強だけをしてても誰にも文句は言われなし、講習会などに参加しなくても大学の先生が新しい研究や話題を教えてくれるので、それらの知識を効率的に吸収できるとても恵まれた環境にあると思います。早く将来の目的を持ち、その目的に向かって様々な活動をしておくことをお勧めします。

留学に関する図書の一部

世界の留学：現状と課題	権藤 与志夫著	東信堂	(377.6.G)
最新アメリカ留学ハンドブック	国際文化教育センター編	大修館書店	(377.6.K)
アメリカ留学ガイド	栄 陽子編	JTB	(377.6.S)
あなたもアメリカの大学で学んでみたら	生田 哲著	産能大学出版部	(377.6.I)
新中国留学ガイドブック	秦 佳朗著	三修社	(377.6.H)
成功する留学	「地球の歩き方」編集室編	ダイヤモンド・ビッグ社	(377.6.C)
毎日留学年鑑	毎日コミュニケーションズ 海外事業部編	毎日コミュニケーションズ	(R377.6.M)
イギリス留学事典	国際交流委員会編	白馬出版	(377.6.K)
ドイツ留学	生田 真人著	三修社	(377.6.I)

推薦図書特集!!

10月は、食欲の秋、スポーツの秋、そして読書の秋です。各学部の先生方にぜひこの一冊を！という図書を選んでいただきました。

今回ご紹介していただいた図書はすべて本館・分館に揃えていますので、どうぞご利用ください。

『ローマ人の物語 (1～5)』 (232 R1～5)

塩野 七生著
(新潮社)

日本人にとって、古代ローマは教科書でのみ接して来た世界であると言えよう。曰く、西洋古代最大の帝国。

伝説上、狼の乳で育ったロムルスを建国者として前7世紀頃に興った都市国家に端を発し、以後5世紀の間、ギリシャ・エーゲ海の諸都市国家や他民族との抗争。第1次から第3次ポエニ戦争を経て地中海世界に君臨する。永き共和制の後、カエサルの子オクタヴィアヌスを初代皇帝として、前27年帝制ローマ帝国を実現。東は小アジア、西はポルトガル、北はイギリス、南はアフリカ地中海沿岸に版図を拡げたが、400年頃、東西ローマ帝国に分裂し衰退する。

芸術・哲学ではギリシャ文明の域を出るものではなかったが、軍事・土木・法制に才能を発揮。しかし、軍事・土木・法制のみで何世紀の間この巨大な文明圏を築き、維持でき得るものか。現ヨーロッパ諸国の法律はローマの法律に基づくとも言われる程に、古代ローマは絶大な影響を現代に及ぼす。西洋文明にどっぷりとつかった私たち日本人にとっても、それはまた、同じことである。全ての道はローマに通じるのは今も同じなのである。

本書は専門書ではない。史実に基づいた物語であり、大変読み易く、おもしろい。ついつい夜を徹して読破してしまおう。が、大変

イライラともする本である。なぜなら本書は1992年の刊行以来、2006年迄毎年一作ずつ書き下されるといった代物なのだ。一冊を読み終わると次は一年待たねばならず、新作が出版された時には、前作を忘れかけていて再読しなければならないのだ。こんなイライラを2006年迄するなんて、嗚呼。

(工学部建築学科 助教授 岩田 三千子)

『アメリカ生活英語』

(830.4 T)

高橋 朋子著
(サイマル出版会)

著者の高橋は米国在住の応用言語学者であるが、異文化コミュニケーションの手段としての「生きた米語」に関心を持ち、大変興味深い報告をしている。ともかく読んでいて面白い。

最近ロサンゼルス近郊での新語。lookism (人種偏見＝見かけで人を判断するところから)、DD (designated driver＝皆でお酒を飲むときに、帰りの運転のために一人だけ飲まない人)。変わったところでは、電子メール交換での書き始めに最近使われる略語、I MHO (in my humble opinion＝私のつたない意見では)。

また英語の意味の変化、起源についても言及している。例えば、silly (ばかげた) は元来よい意味を持つ語だったが (seely＝めでたい)、ちょうど日本語の「めでたい」が「おめでたい人」という場合は悪い意味になるよ

うに経年変化したとか、Goodbye はGod be with youが原型であるとか、身近な例にうまく言及している。また、新聞の「恋人探し」欄に使われている形容詞のリサーチを行って、理想の男性像を女性は、successful (成功した)、witty (機知に富んだ)、secure (経済的、情緒的に安定した) というやや現実的な言葉で、また、理想の女性像を男性は、attractive (魅力的な)、bright (聡明な) など、容姿にややこだわった言葉を使って最も頻繁に表現している等と報告しているのは、言葉の壁を越えて愉快である。

(国際言語文化学部 講師 植松 茂男)

『1940年体制 (332.107 N)
・さらば「戦時経済」
野口悠紀雄著(東洋経済新報社)』

野口氏は、現在ベストセラーの『「超」勉強法』『「超」整理法』などの著者でもある。はたして、勉強法に「超」なるものがあるかどうかは疑問であるが、この『1940年体制』は、経済史学の研究成果や自らの官僚生活の経験なども踏まえて書かれており、「超」刺激的な内容である。

著者は、戦後の日本型経済システムの基幹的な部分が、戦時時代に導入された制度や仕組みからなっていると分析する。企業システムをはじめ官僚体制、金融・財政制度などは戦時体制を引きずっており、変化する国際環境の中では現体制の改革が今後の発展にとって不可欠だと主張される。理論が極めてシンプルに展開されており、そのためいくつかの論点で異論もあるが、住専や薬害エイズ問題で露呈した現在の日本の経済や社会、企業、官僚システムが有する限界面や問題点を考える際、この本から多くのヒントを得ることができよう。

歴史を学ぶ—もちろん知的興味や趣味から歴史書を読み、学ぶことは大いに結構である。

しかしまた、現実ときり結んだ問題意識をもって歴史から学ぶことも必要であろう。新たな世紀における日本の経済・社会システム、企業体制はどうなっていくのか、またどうあるべきなのか。そうしたことを学び、考える手がかりとして、この1冊を薦めたい。

(経営情報学部 助教授 佐藤 正志)

『自分で考えるちょっと (321 D)
違った法学入門』

道垣内 正人著 (有斐閣)

身近にあるべき法律が非常に遠い存在と感じる人は少なくないであろう。それは、日常使わないような言葉や表現があることで法律が難しいものと思っているのかもしれない。法律用語と言われるものを含めて、まず専門知識を知ってからなどと考えていると、ますます法律を敬遠してしまうのではないだろうか。

本書は、題名にあるように従来の法学入門書とは少し違って自分で考えることに主眼を置いている。「法律学に正解はない」ということが一番強調したいことであるとし、工夫された12の問題を設定することで徐々に法律というものがどういう存在であるのかを教えてくれる。もっとも、興味がある問題だけを選んで良いであろう。問題に対する結論をまずは自分で出してから、それをどのように根拠付けるのかを考えてみてほしい。日本だけでなく外国の法律も取り上げ、しかも必要な知識もわかりやすく説明されているので、本書だけで楽しみながら法律という学問を学ぶことができるようになっている。講義で使われる教科書のようなではないので、気軽に法律を知ってみたいという人には是非薦めたい本である。

(法学部 講師 小山 昇)

『DNAに魂はあるか (491.371 C)
一驚異の仮説』 Francis H.C.Crick 著,
中原英臣、佐川 峻 訳 (講談社)

20世紀の科学における三大発見の一つが、あのワトソン・クリックのDNAモデルである。彼らは、DNA二重らせん構造とワトソン・クリック型塩基対の発見により、1962年ノーベル医学生理学賞を受賞した。この発見は以後、分子生物学はもとより、医学、生化学、毒性学などのあらゆる生命科学の怒濤のような発展へとつながっている。本書は、その一人Francis H.C.Crick がこれまでブラックボックスとされた脳の振る舞いに関して、「驚異の仮説」を提示し、その科学的根拠や実験的アプローチについて解説したものである。本のタイトルはいささかセンセーショナルではあるが、「人間の心ー脳の働きーは、

神経細胞およびそれに関連する分子の相互作用で説明できる」という彼の科学的信念のもとに哲学、心理学、宗教学などの旧来の考え方を一掃し、極めて合理的手法によって仮説を証明しようと試みている。また、自己意識や宗教的体験、さらには恋愛などの脳の振る舞いを最初から研究対象にするのではなく、視覚的知覚を対象とし、眼で見たものを脳でどのように認識するかについて絵や図を使って平易に諸原理を証明している。そのため、読者は専門的知識を必要とせずにニューラル・ネットワークともいえる彼の脳の理論モデルを理解することができる。

情報の時代とされる21世紀の主役はDNAと脳とコンピュータであるといわれる。そのようなキーワードを引用せずとも、発想の柔軟性、アプローチの合理性、理論構築の巧みさの点で学生や若い研究者にとって啓蒙的内容をもつ書であるともいえる。

(薬学部 講師 上野 仁)

一般市民利用者の声

一昨年の春、長年にわたった職業人としての役割と責任を解除され、改めて定年後の生活を、どのようにスタートし人生の余白に何を書き込んでいくかを考えました。

そこで現役当時に、遣り残していた法律学習への挑戦を試みることを生活の中核にすえるようにしました。そのため当初は枚方市内の公立図書館を利用

していましたが専門書の数、種類も制約されているのが実状です。中ノ島の府立図書館へも足を運び

ましたが主に閉架式であるため不慣れも手伝い十分に活用しきれずにいました。ちょうどその頃、枚方市の広報「ひらかた」平成6年9月1日号に摂南大学図書館公開の記事を見つけ、すぐに利用申込みをしました。摂南大学には法学部が設置されていることもあり専

門書は豊富に揃えられており、しかも開架式なので容易に閲読書を選ぶことができます。ただ市民利用者には図書

の貸出しが認められていませんので、常時、3～4冊を併読し、閲読中断を最小限にでき

るよう備えてきました。目下のところ市民生活に比較的にかかわりの多い民事実定法、とりわけ財産法を重点に学習を続け

ていますが、2年余を経て、なお道は遠く人生の余白を埋めていく厳しさを実感しています。それでも、毎日、明るく、ゆったりして快適な環境の閲覧室で読書に励んでおり、読書に倦むと窓から北摂の山々の眺望を楽しんでいます。



大学図書館公開と住民利用

なかしま しょうじ
中島 暉二

枚方市在住



宮沢賢治作品の魅力について

国際言語文化学部 助教授 **小川 豊生**



今年には宮沢賢治の生誕百年にあたるということで、記念の出版物があいつぎ、一種の賢治ブームといった状況が生まれているようです。今世紀初めに考えぬかれた賢治の思想をもう一度見直そうとするのはとても良いことだと思います。けれどもわたしたちが忘れてはならないことは、賢治自身は、ブームや人気などと最も縁の遠い人だったということです。かれが生前に出版したのは『春と修羅』と『注文の多い料理店』の二冊にすぎず、どちらもあまり売れないでしまったものでした。また賢治は、死の直前に弟（宮沢清六氏）に向かって「この原稿はみなおまえにやるから、若し小さな本屋からでも出したいところがあったら発表してもいい」と語ったそうです。ちょうどあの有名なフランツ・カフカが、死ぬ前に自らの原稿を焼き捨てるように友人に言い残し、にもかかわらずその友人の一種の裏切りのおかげで、今世紀を代表する文学テキストをわたしたちが手にしえたのとどこか似ているように思われます。どちらも名声や流行とほど遠いところで、誰もが考えもしなかった異次元の世界から人間の世界をとらえつけていた訳です。

賢治の作品のほとんどは人間の作った論理や倫理が通用しない世界、つまり異界を舞台につくられているといえます。人間も動物も植物も、あらゆる生きものが同じレベルにいる時空を創りだすこと、それが賢治の方法の中心にありました。彼の童話の主人公たちは、風の中、星の涯はてといった、ふつつ人間が立ち入ることの出来ない、現実の向こう側にいる時にいきいきとうれしそうになります。



風がどうと吹いて、ふなの葉がチラチラ光るときなどは、
 虔十はもううれしくてうれしくて、ひとりでに笑えて仕方

のないのを、むりやり大きく口をあき、はあはあ息だけつけてごまかしながら、いつまでもいつまでも、そのふなの木を見あげて立っているのです。（『虔十公園林』）

もちろん『風の又三郎』もそうですし、『どんぐりと山猫』も「風がどうと吹いてきて」山猫が登場します。まるで世界が変わる前触れのように、風が吹き、別の世界が現れ、人間の匂いが吹き飛びます。『銀河鉄道の夜』のジョバンニにしても、黒曜石で出来た銀河鉄道の地図に導かれ、人間の匂いのしない星たちの空間へといかにもうれしように吸い込まれていきます。こうした特徴と呼応するように、そもそも賢治の用いる言葉自体までが異界の響きをもっています。たとえば、

かばの木はさっと青くなってまた小さくプリプリふるえました。（『土神ときつね』）
 まわりの山は、みんなたったいまできたばかりのようにうるうるもりあがって、まっ青なそらのしたにならんでいました。（『どんぐりと山猫』）

空が光ってキンキンと鳴っています。（『風の又三郎』）

こういう奇妙な言葉に出会うとき、私たち読者もいつのまにか「プリプリ」「うるうる」と、日常の感覚をはなれた異世界へと誘い込まれていくでしょう。

賢治を読み直そうという動きが起こるのは、単に生誕百年といったことではなく、人間の世界の根本的ないきづまりを打開する重要なヒントが、異世界を固有の感覚でとらえた賢治の言語宇宙にちりばめられているかもしれないという、私たちの切実な祈りのようなものが根底にあるからではないでしょうか。このブームを利用し、しかもブームにのらず、賢治の宇宙をもう一度読み直してみたいものです。

利用者の声

私にとって図書館は小さな頃からの大切な遊び場です。よく図書館にこもって好きな本に読みふけていたものです。今もその遊び感覚はどこかに残っている気がします。

読んだことのある本をじっくりと読み直すもよし、興味のあった映画の原作を読むのもまたよし。こういった本を簡単に探し出せるのも検索機のおかげ。今では行く度にお世話になるとい

う状態です。この検索機と「図書総目録」があれば、探していた実験書等もすぐに見つかり、しっかりレポート作成に役立ってくれる事は言うまでもありません。

図書館ではレポート作成に費やす時間が、どうしても長くなりがちですが、気分転換として、雑誌を読んだり、視聴覚室を利用する

他にも専門以外の書棚を覗くのもまた一興です。とても理解できそうにないものから、結構気軽に読めるもの、「何だこれは」というようなタイトルのも



のままで色々あります。

こういった利用法は多分多くの方がされている事でわざわざ

文章にするほどのものではないかと思えます。ですが、時間潰しやレポート作成の為の場所と言う考えを捨てて入って見ると自分だけの場所のように感じられ、なかなか面白いのです。自分だけが目にとめそうな本を見つけたりと、図書館で“遊んで”みてはいかがでしょうか。

遊び感覚で図書館利用

薬学部衛生薬学科1年

抱 由紀子

医学中央雑誌CD-ROM版使用説明会実施（分館）

図書館枚方分館では医学中央雑誌CD-ROM版の使用説明会を実施しました。CD-ROMの内容については前回の学而でお知らせしたとおりです。

説明会は6月13日（木）の午後に実施しました。参加対象は教員と大学院生とし、説明は業者が実際にパソコンを操作しながら、画面上で行う形式をとりました。

参加者は授業等の関係で少なかったものの熱心に検索方法を聞いておられました。質疑



応答も活発に行なわれ、予定していた1時間半がアッという間に過ぎてしまい、内容の充実した説明会でした。

編集後記

- ・ 狐狸庵先生として親しまれた遠藤周作氏死去。図書館では哀悼の意を込めて特別コーナーを設置しています。「沈黙」「海と毒薬」などの英訳本まであり、一般の書店より中味が充実していますので、ぜひご利用ください。
- ・ 今号にご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

摂南大学図書館報「学而」No.47 1996.10

編集・発行 摂南大学図書館 本館 〒572 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL. (0720) 39-9112
 枚方分館 〒573-01 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL. (0720) 66-3102
 印刷 (株)関西廣済堂 〒560 大阪府豊中市蛍池西町2-2-1 TEL. (06) 855-1100